

クラウド・テクノロジー活用部会活動報告 実践機械学習システム 音声編

2016年9月16日

先端||T活用推進コンソーシアム クラウド・テクノロジー活用部会 富士通株式会社 松井 唯



機械学習の背景

• 機械学習では画像や自然言語に対する

処理が盛ん

- 画像分野
 - Googleの猫
- 画像+言語
 - ・画像からの説明文生成





People play soccer

<u>※この発表は個人の見解であり、所属する組織の公式見解ではありません</u>



音響分野における機械学習

- 音響分野では音声認識に対する適用が研究
 - Siri
 - Google音声認識
 - ロボット対話

クラウド化により大量のデータを 処理可能となり性能向上





音響分野における機械学習

- ・機械学習(特にDeepLearningの領域)では 画像や自然言語に対する処理が盛ん
- 音声認識の分野も研究

・「音声認識(文字の書き起こし)」以外の 機械学習は注目度が低い



音声認識以外の適用先

- 環境音識別
 - ライフログ管理







音声認識以外の適用先

- 危険音認識
 - 子供, 老人見守り



一人暮らしのお年寄りが 倒れた音を家族に連絡



泣き声を検知し両親に連絡



音声認識以外の適用先

• 話者識別







- その他にも
 - 音声合成,機械異常検査, 音楽分類, 感情分析 etc...



今回の実施内容

機械学習の足がかりとして音声を プログラムで取り扱う必要

・機械学習と親和性の高いpythonでの 音声の取り扱いをクラウド・テクノロジー活用 部会で実践してみました



声でドアの語
た門
するシステム

まではいたらなかったので

言っている合言葉があっていて,話者がそれっぽいかを判定するシステム









音声処理の流れ

1. 音声入力

 \bigvee

(共通部分)

2. 特徴量抽出



3. 機械学習

(分野ごとに多様)



ソースコード

```
from scikits.talkbox.features import mfcc
2.
     import sys
3.
     import numpy as np
     from scipy.io.wavfile import read
4.
5.
     import math
6.
     argvs = sys.argv
7.
     def calc mfcc(data, fs):
8.
              mfcc_data, trush, trush = mfcc(data, nwin=256, nfft=512,fs=fs,nceps=13)
9.
             meanceps = np.zeros(mfcc data[0].size)
10.
             for mc in mfcc data:
11.
                           meanceps += mc
                                                                                                     特徴量抽出
12.
              return meanceps/mfcc data[0].size
     def build model(datas):
13.
14.
       mue=np.zeros(len(datas[0]))
       sigma=np.zeros(len(datas[0]))
15.
16.
       for d in datas:
17.
         mue = mue+d
18.
       mue = mue/len(datas)
       for d in datas:
19.
20.
         sigma = sigma+(mue-d)*(mue-d)
       sigma = sigma/len(datas)
21.
22.
       return mue, sigma
     def gausian(x,mue,sigma):
                                                                                                       機械学習
24.
       delda = 0.001
                                                                                                     モデル学習
       return 1/math.sqrt(2*math.pi*sigma+delda)*(math.exp(-1*pow(x-mue,2)/(2*sigma+delda)))
25.
```



ソースコード

```
def Likelihood_average(ary):
26.
27.
        ave=0
28.
        for n in ary:
29.
          ave+=n
30.
        return n/len(ary)
31.
     def ditect(model_mue,model_sigma,target):
32.
        likelihood = []
33.
       for i in range(len(target)):
34.
          likelihood.append(gausian(target[i],model_mue[i],model_sigma[i]))
35.
        return Likelihood average(likelihood)
36.
     def judge(val):
37.
               if val > -2:
                                                                                                                     機械学習
                               print "Open"
38.
                                                                                                                     認識部分
39.
               else:
                               print "Close"
40.
     if __name__ == '__main__':
41.
42.
               mfccs = []
43.
               fnames = ['hirake5.wav', 'hirake2.wav', 'hirake3.wav', 'hirake4.wav']
               target = argvs[1]
44.
               for fname in fnames:
45.
46.
                               fs, data = read(fname, 'rb')
47.
                               mfccs.append(calc_mfcc(data, fs))
               mue, sigma = build model(mfccs)
48.
               trush, t_data = read(target,'rb')
49.
               t_mfcc = calc_mfcc(t_data, fs)
50.
                                                                                                                    メイン部分
51.
               val=math.log10(ditect(mue, sigma, t_mfcc))
52.
               judge(val)
```





- 1. モデル構築用ファイル読み込み
- 2. 特徵量抽出
- 3. モデル構築
- 4. 被判定ファイル読み込み
- 5. 特徵量抽出
- 6. モデルを使って尤度を算出
- 7. 尤度から最終判定



今回のデモの内部処理

- 入力:scipy
- 特徴量抽出:scikits.talkbox
- 機械学習(自作)





C言語などではメモリ確保やファイルオープン、 開放など大変

- Pythonの場合は一行で記述可能
 - scipy.io.read(ファイル名)





- MFCC(メル周波数ケプストラム係数)
 - 一般的に音声認識に用いられる特徴量
 - 人間の聴覚に基づいた特徴
- 計算手順
 - 1. FFT
 - 2. 高域強調
 - 3. メル軸射影
 - 4. フィルタバンク処理
 - 5. 離散コサイン変換



特徴量抽出

- scikits.talkboxを使うと
- 計算手順







- ・ 4つの音声ファイルを元にMFCC算出
- 13次元それぞれに正規分布に従うモデルを 学習
- ・入力音声に対する尤度を計算

ここはまだまだ工夫の余地がある



今回のデモの内部処理

入力や前処理はライブラリが行ってくれる

難しく、工夫のしがいがある学習部分だけを 頑張れば良い

- 一番難しいところ
 - 環境構築: windows上でpythonを行うとライブラリが動かなかったり非常に困難





- 音声認識以外でも音の機械学習の余地が多い
- 音声の特徴量にはMFCCが使用されている

- 実践機械学習を元に声を認識してみた
- 音声入力や特徴量抽出はpythonを使えば簡単